

令和元年 12 月 14 日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第14期
「京都教師塾」
**第3回教育実践特別公開講座 講師：生徒指導課 山根 茂樹 副主任指導主事
「児童虐待の現状とSSW」**


今回は、生徒指導課の山根茂樹先生にお越しいただきました。講義の中では、身体的虐待・ネグレクト（保護の怠慢）・心理的虐待・性的虐待のそれぞれのケースをもとに、担任・学校としてどうするかを隣どうして話し合いました。そして、担任として大事なことは「寄り添い」「情報共有」「関係機関との連携」だと教えていただきました。また、子どもの気にかかる様子に気付いたとき、その事実だけではなく、背景に虐待の疑いがあるかもしれないという視点をもつことが大事だとおっしゃっていました。教師・SC・SSWの対応についても比較しながら教えてくださったので、違いがよく分かったことと思います。

生徒指導とは、問題行動への対応だけにとどまらず、自己指導能力の育成をめざすことです。そのためには、あらゆる教育活動において、すべての教職員で生徒指導を行うこと、そして「生徒指導の三機能」で関わることを常に忘れないようにしたいものです。

**第4回京都市教育学講座 講師：学校指導課 中澤 明美 首席指導主事
「生きる力を育むためのキャリア教育」**


午後は、学校指導課の中澤首席にご講義いただきました。キャリア教育は職業教育ではないこと、そして特別な教育ではないということを改めて認識できたことと思います。

京都市ではキャリア教育を「生き方探究教育」と呼んでいます。生き方探究教育でめざす子どもの姿は、基礎的・汎用的能力を育てることです。そこで、学校現場における総合的な学習の時間の取組や、京都市ならではの生き方探究館での取組についてお話いただきました。

分散会では、「キャリア教育の視点とは？」というテーマで話し合いました。「キャリア教育は生き方を考える教育」だと頭では理解していても、具体的にどのような活動や取組を通して生きる力をつけることができるのか、まだイメージがしにくかったかもしれません。学校実地研修等で現場を見ていく中で、今回学んだキャリア教育の視点を頭の片隅に置いておくと、新たな見方・考え方ができるのではないのでしょうか。以下は、グループアドバイザーの先生方がまとめて話された内容の一部です。学びの一つとしてください。

○いろいろな意見を聞いて話し合い、それをまとめて発表している今の姿が、これまでのみなさん自身のキャリア教育の成果だと思います。

○キャリア教育は現場でも難しいと感じている教師もいます。要は教師がすれば簡単なことでも、子どもに任せてもよいところは任せて、それを積み重ねることで、「生きる力」に必要な力が身に付いていくのではないのでしょうか。

仲間のレポートに学ぶ



第4回京都市教育学講座【講義】 「生きる力を育むためのキャリア教育」

1組+8組



今回の分散会は、2組
合同で行いました。



2組+7組

1 全体会

本日の講義では「キャリア教育」について考えさせられた。その中で2点印象に残っている。1点目は「常に志をもつ」ことである。迷うこともあるが、それは大きく変わるチャンスだと思いながら志を大事にしていきたい。その中でキャリア教育をうまく利用していくことで、子どもたちのためになれば良いと思う。2点目は、「何事にも繋げる」ことが大事だと考えた。話にもあったが、学習したらそれで終わりではなく、どんな事も繋げていけると、もっと生きるための教育ができるのではないかと考えた。みんなの前で発表するのは緊張したが、楽しくできた。

2 分散会

分散会では、「キャリア教育の視点」について話し合った。今回の班では様々な意見があり、交流をした結果、「自信」をつけることが大事だと思った。それは、生徒に対しても自分に対しても言えることである。「自信」があればキャリア教育などにも力がつき、自分も子どもも新たな自分に出会えるのではないかという意見が出て、とても面白い議論になった。さらに、他の班から「常に学び続ける」という言葉が出て、なるほどと思った。学び続けることで、また自信にも繋がるのではないかと考えた。そのためにも、自分が子どもの手本となるように行動していくことが必要だと考えた。

3 まとめ

キャリア教育はどのような分野にも関係しているので、聞いていていろいろと考えさせられた。自己理解していくことで、子どもたちの事を知るという視点も大事にしていきたいと考えた。「志」という言葉を大事にしたい。

基礎的・汎用的能力として、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を覚えておくとうよいと思います。この能力をベースに、自校の子どもたちが大人になった時に身に付けさせておきたい力を設定し、それを学校教育の中で、教師が意識して教育活動に反映させればよいということです。教師が子どもの可能性を伸ばすことは大事なことです。子どもたちは、これから先も大人になっていく過程でいろいろな人と出会い、様々な体験を積み重ねる中で、可能性はいくらでも伸びると思います。それにもまして、「困難に出会った時に、それを克服する力を付けさせる」ということが、私のキャリア教育をすすめる上での大事な視点の一つでした。

3組+6組



4組+5組

フィールドワークの様子



青少年科学センター
(11/27)



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
学びの機会を京都市民全員に実践しましょう!

